

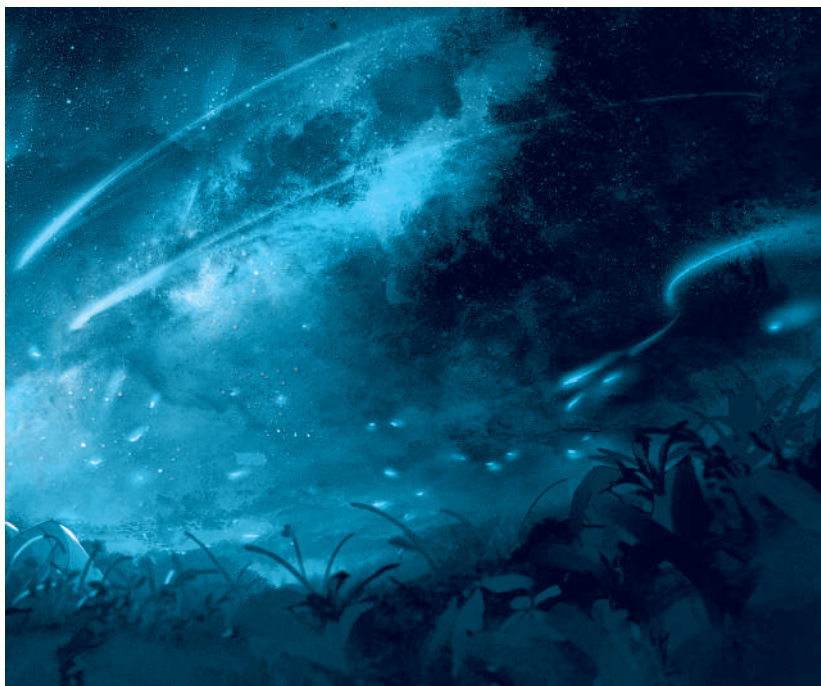
はじめに

人と人をつなぐメディアであるはずのSNS上では、正義の名のもとにおびただしい数の虚偽妄言が飛び交い、人と人の結び目を壊し続けています。そして、ますます、混乱に拍車をかけています。「ウソも方便」が、「ウソが真実」みたいになって、何が本場で、何がウソかよくわからなくなっていました。

その昔、人類は天まで届くような『バベルの塔』を築きました。それが神の怒りに触れて、人間同士の言葉が通じなくなったという物語が旧約聖書に書かれています。

多様な世界の言葉は、時を経て今、中身のない殻だけが膨らんだまるでバブル（泡）のようです。傲慢を増長させた文明は滅びるが、多様性から謙虚さを学ぶ文化は滅びないと言われます。さかのばれば、世界の言語は一つの言葉からはじまったと言われます。文字も同様です。『戦争と平和』を書いたロシアの文豪トルストイさんは、救いを人間の良心に求め、常に良心に水をやることも重要だと説きました。

「共通の言語」があるのなら、「共通の良心」もありそうです。過去を振り返る「自省」と、正しい判断を導く「良心」こそが、今必要とされる「真実の言葉」なのかもしれません。みなさんもししよに、もっとたくさん真実の言葉を探す冒険の旅に出てみませんか。



立花隆	6
森英恵	8
福島千里	10
蝶野正洋	12
阿川佐和子	14
和泉悠	16
加藤登紀子	18
濱口竜介	20
檀ふみ	22
内山信二	24
西田裕紀子	26
安藤忠雄	28
有村架純	30
有吉弘行	32
ミハイル・シーシキン	34
上田洋子	36
渡辺陽一	40



YOU	78
スマイリーキクチ	80
カンニング竹山	82
樋口恵子	84
宮台真司	86
室井佑月	88
平野啓一郎	90
竹下景子	92
織田裕二	94
エリソン鬼塚	96
草刈民代	98
八村塁	100
三浦綾子	102
小川糸	104
ブレイディみかこ	106
美輪明宏	108

田中希実	42
吉田拓郎	44
桐野夏生	46
堀江謙一	48
土井隆雄	50
山下良美	52
小沢一敬	54
水原希子	56
石田依良	58
近藤春奈	60
井上円了	62
杏	64
黒澤明	66
葉加瀬太郎	68
竹原良子	70
川添愛	72
ロジャー・ペンローズ	74

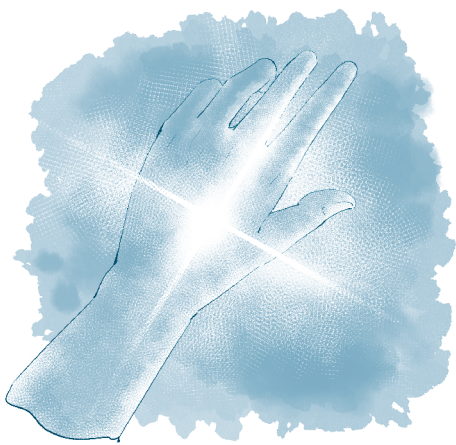
職業は？と聞かれたら、

僕は「勉強屋」だって言えるだろう。

立花 隆

1940～2021

ジャーナリスト、作家、評論家



博物学者の南方熊楠さんや言語学者の井筒俊彦さんは、知の巨人と形容されました。ジャーナリストの立花隆さんも、政治から生物学、医療、生命、宇宙、哲学、さらに臨死体験など、ジャンルの垣根を越えてさまざまなテーマと取り組み、その博学ぶりで「知の巨人」と讃えられました。

立花さんのテーマは、「人間はどこから来て、どこへ行くかとしているのか」を探索し、「人類とは何か」、「生と死とは何か」という根源的な問題を解明することでした。「専門分化されて細切れになった『知』を統合しなければ、世界は見えてこない」「知には限界がない。人間は面白い、知れば知るほど興味が尽きない」と立花さんは言っています。高名な学者や知識人を取り材して世界中を駆けめぐった彼は、アマゾンのインディオから掛けられた「人間は、死ぬために生きているのだ」という言葉に思わず足を止めます。そして、「真の人間性は、自然なままに生きている人たちの中に花開いている」ことに気づかれます。

つねに問い続け、謙虚に学び続けた「勉強屋」立花さんは、世界の高名な学者ではなく、密林に住む名もない人から大切なことを教えられたのでした。